

ツボ

短期集中C型の
みんなで考えよう well-being ⑫ (最終回)

TRAPE 代表 CWD / 作業療法士 鎌田大啓

ともひろ

介護事業所での短期集中サービス

取り組みは「地域活性化の土台づくり」に

現する手段の一つが総合事業での短期集中サービスだということでした。

最大の目的は「そこに住んでいる一人ひとりがウェルビーイングな日常を過ごすことができる地域をつくる」ということです。

だからといって、短期集中サービス単体ではなく、必ず他の事業や地域の資源とつなげ、連動させて考えることが本質的価値を生み出すために重要なことです。さまざまな組織、ひとなどが関わるわけですが、対象者の可能性を生み出す非常に泥臭い関わりをする中では、短期集中サービスを実施する介護事業所の皆さんがいます。

介護事業所での短期集中サービスは地域活性化の土台づくり

ちょっとした困りごとが生じるフレイルと呼ばれる時期は、健康寿命と大きな関わりがあります。

ます。介護事業所の多くは「地域の皆さまの健康を守る」という理念、ビジョンを掲げています。介護事業所があなたにかへ向き合っていくのは、地域にとってこれだけ強いことではないでしょうか。これだけでも介護事業所が参画する意義があるのではないのでしょうか。

超高齢社会で長寿社会は、地域に高齢者が占める割合が大きくなるということです。多くの高齢者は生活者であり消費者です。

この方々が社会とのつながりや役割がなくなると、要介護者になっていくということは、生活者であり消費者でなくなるということです。

介護予防、短期集中サービスなどを介護事業所が行い、「一人ひとりがウェルビーイングな日常を再び生み出す」というのは、再び生活者・消費者になることでもあります。まさに地域活性化の土台づくりを介護事業所が行い

介護事業所の存在価値や可能性を発展的にするために

一方、短期集中サービスを介護事業所が行うのは経営的に厳しいという声もよく聞きます。ある側面です。短期集中サービスやその他の介護予防事業の本質的価値が整理されておらず、今までの事業づくりの延長で事業設計をすると、成果に見合った正当な単価となりません。

いい成果（＝市町村が作りたい街づくりの在り方）を生み出した事業には、それなりの報酬も必要ということです。短期集中サービスやその他の介護予防事業は、コストではなく投資マインドで事業設計する必要がある、ということです。これは市町村担当者の方々に最初にイメージしたとき、事業設計していただく必要があります。

その上で、市町村担当者が投資との思いを込めて事業設計できるだけの成果を出す義務が、介護事業所に求められるようになります。

そのためには、医療介護専門職の教育をアップデートしたり、より良いケアを提供できる前段階として業務オペレーションをより効果的で効率化させ生産性向上を図る取り組みや、関係する組織やひととの連動について取り組みを行うなどの新たな試みも重要です。

介護事業所のサービスがウェルビーイングな日常を生み出すことに非常に有益だということを自ら実証し、社会に発信していきましよう。このこと自体が介護事業所の存在価値や可能性をさらに発展的にするのだと思います。

短期集中サービスに取り組み、日本中の高齢者の方々、地域をウェルビーイングにしましように！(一)